

**「第18回精神保健福祉士国家試験(専門科目)」の問題文および解答・簡易解説**

＜2016年1月23日(土) 実施＞

(問題文:2016年1月24日掲載)

(解答・簡易解説:2016年1月25日掲載)

区分	問題文 (第18回精神保健福祉士:専門科目)	やまだ塾の 解答・簡易解説
精神疾患とその治療	<p>問題 1 次のうち、精神科病院の廃止を訴え、法律第180号の制定運動に関わった人物として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>1 プロイラー(Bleuler, E.) 2 クラーク(Clark, D.) 3 ピネル(Pinel, P.) 4 バザーリア(Basaglia, F.) 5 ジョーンズ(Jones, M.)</p>	<p>④ 1978年5月13日、イタリア議会は、「180号」または「バザーリア法」として知られる精神医療改革に関する法(「任意及び強制入院と治療」に関する法180号)を公布した</p>
	<p>問題 2 脳の障害部位と症状に関する次の組合せのうち、正しいものを2つ選びなさい。</p> <p>1 前頭葉 —— 感覚失語 2 側頭葉 —— 運動失語 3 後頭葉 —— 視覚失認 4 頭頂葉 —— 自発性低下 5 大脳基底核 —— 不随意運動</p>	<p>③⑤ 視覚失認の障害部位→両側後頭部 大脳基底核の異常→不随意運動</p>
	<p>問題 3 ICD-10における精神および行動の障害に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>1 症状性を含む器質性精神障害 —— 広汎性発達障害 2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害 —— 急性一過性精神病性障害 3 気分(感情)障害 —— 統合失調感情障害 4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 —— 摂食障害 5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 —— 性同一性障害</p>	<p>② ・F20-F29 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 ・F23 急性一過性精神病性障害</p>

	<p>問題 4 次のうち、心的外傷後ストレス障害(PTSD)の症状として、正しいものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 回避</li> <li>2 食欲亢進<small>こうしん</small></li> <li>3 衝動行為</li> <li>4 カタレプシー</li> <li>5 フラッシュバック</li> </ol>	<p>① ⑤ 基本的3症状=追体験(フラッシュバック), 回避, 過覚醒</p>
	<p>問題 5 状態像・症候群と症状に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 躁状態 ————— 連合弛緩<small>しかん</small></li> <li>2 うつ状態 ————— 観念奔逸</li> <li>3 解離状態 ————— 仮面様顔貌</li> <li>4 パーキンソン症候群 — アカシジア</li> <li>5 コルサコフ症候群 — 見当識障害</li> </ol>	<p>⑤ コルサコフ症候群の主症状=記憶障害, 失見当識, 作話</p>
	<p>問題 6 次のうち、脳波異常によって診断されるものとして、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児自閉症</li> <li>2 パニック障害</li> <li>3 複雑部分発作</li> <li>4 強迫性障害</li> <li>5 一過性脳虚血発作</li> </ol>	<p>③ 複雑部分発作(意識は低下するが完全に消失しない)は、脳波の測定により診断できる</p>
	<p>問題 7 向精神薬とその作用に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 炭酸リチウム ————— 抗てんかん作用</li> <li>2 定型抗精神病薬 ————— ドーパミン受容体遮断作用</li> <li>3 非定型抗精神病薬 ————— アセチルコリンエステラーゼ阻害作用</li> <li>4 三環系抗うつ薬 ————— 選択的セロトニン再取り込み阻害作用</li> <li>5 ベンゾジアゼピン系抗不安薬 — ヒスタミン受容体遮断作用</li> </ol>	<p>② 定型抗精神病薬は、ドーパミンのみを抑制する作用をもち、第一世代の抗精神病薬と呼ばれている</p>

	<p>問題 8 次のうち、社会生活技能訓練(SST)で用いられる技法として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 モデリング</li> <li>2 系統的脱感作</li> <li>3 催眠</li> <li>4 絶対隊<sup>がじょく</sup>褥</li> <li>5 共感的理解</li> </ol>	<p>① バンデューラの社会的学習理論におけるモデリングの原理から今日のSSTの体系が形成された</p>
	<p>問題 9 次のうち、「平成23年患者調査」(厚生労働省)において、平成8年と比較し、推計入院患者数が増えている疾患として、正しいものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 うつ病</li> <li>2 統合失調症</li> <li>3 アルコール依存症</li> <li>4 アルツハイマー病</li> <li>5 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害</li> </ol>	<p>①④ ・気分[感情]障害(躁うつ病を含む) = 22.3 → 29.1 ・神経系の疾患(アルツハイマー病) = 66.5(不明) → 114.9(41.0)</p>
	<p>問題 10 「精神保健福祉法」による入院に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 任意入院では、精神保健指定医が必要と認めれば72時間に限り退院を制限できる。</li> <li>2 医療保護入院では、2名の精神保健指定医が認めれば家族の同意は不要である。</li> <li>3 措置入院では、家族の同意が得られた時点で速やかに医療保護入院に切り替える。</li> <li>4 緊急措置入院では、精神保健指定医の診察なしで72時間に限り入院させることができる。</li> <li>5 応急入院では、自傷他害のおそれがあると認められ、急速を要する場合、72時間に限り入院させることができる。</li> </ol> <p>(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。</p>	<p>① 法第21条第3項 「前項に規定する場合において、精神科病院の管理者は、指定医による診察の結果、当該任意入院者の医療及び保護のため入院を継続する必要があると認めるときは、同項の規定にかかわらず、72時間を限り、その者を退院させないことができる。」</p>

<p>精神保健の課題と支援</p>	<p>問題 11 次の記述のうち、WHOのメンタルヘルスアクションプラン 2013-2020に掲載されたメンタルヘルスの定義として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神疾患の治療を受け、現在は回復している状態をいう。</li> <li>2 尊厳と権利について平等であり、理性と良心を授けられ、互いに同胞の精神をもって行動できることをいう。</li> <li>3 精神障害者が社会参加する上で生活の支障となる物理的障害や精神的障壁を取り除くことをいう。</li> <li>4 自身の能力を発揮し、日常生活におけるストレスに対処でき、生産的に働くことができ、かつ地域に貢献できるような満たされた状態をいう。</li> <li>5 精神障害によって差別を受け、自らをコントロールしていく力を奪われた人が、本来持っている力を取り戻していく過程をいう。</li> </ol>	<p>④ 「アクションプランは、個人が自身の能力を発揮し、生活における通常のストレスに対処し、生産的かつ有意義に働き、地域に貢献することができるような満たされた状態(well-being)と概念化されるメンタルヘルスもその目標に含む。」</p>
	<p>問題 12 次のうち、エリクソン(Erikson, E.)による発達理論における、成人期初期(young adult)の発達課題として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「基本的信頼」 対 「基本的不信」</li> <li>2 「自律性」 対 「恥・疑惑」</li> <li>3 「勤勉性」 対 「劣等感」</li> <li>4 「同一性」 対 「同一性拡散」</li> <li>5 「親密」 対 「孤立」</li> </ol>	<p>⑤ ・前成人期＝親密さ 対 孤立 ・成人期＝生殖性 対 自己没頭</p>
	<p>問題 13 「子どもの自殺が起きたときの緊急対応の手引き(平成22年)」(文部科学省)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校への教育委員会のサポートは、自殺が発生して3日目以降が望ましい。</li> <li>2 「学校再開日」には、校長が全校集会で出来事を詳細に説明する。</li> <li>3 自殺の連鎖の防止には、数日間の休校が望ましい。</li> <li>4 自殺の事実を文書で保護者に知らせる場合には、あらかじめ遺族に文案を示して了解を得る。</li> <li>5 教職員がスクールカウンセラーに相談したいときは、管理職に申し出る。</li> </ol> <p>(注) 「学校再開日」とは、「発生後に初めて子どもが登校する日」のことである。</p>	<p>④ 「遺族へのかかわり : 自殺の事実を子どもや保護者、マスコミに伝えるにあたっては、遺族から了解をとるよう努めてください。特に、死亡の事実を文書で保護者にお知らせする場合には、あらかじめ遺族に文案を見せて了解をとるようにしてください。」と記述されている</p>
	<p>問題 14 マタニティブルーズ(maternity blues)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 産後4週間以上経過してから出現する。</li> <li>2 一過性のもので短期間に軽快する。</li> <li>3 幻覚や妄想が主な症状である。</li> <li>4 精神科における治療が基本になる。</li> <li>5 産後うつ病の別名である。</li> </ol>	<p>② 一過性で、通常2週間ほどで症状は消失する</p>

	<p>問題 15 次のうち、スクールソーシャルワーカーの中核的業務として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ</li> <li>2 臨床心理アセスメント</li> <li>3 児童・生徒の養護</li> <li>4 教諭に対する教育指導</li> <li>5 児童福祉法に基づく児童の一時保護</li> </ol>	<p>① 「問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ :問題行動(いじめ, 不登校, 児童虐待, 暴力行為等)における家族, 友人関係, 学校, 関係機関, 地域等への働きかけ」(スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領)</p>
	<p>問題 16 「労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神疾患に罹患している労働者を発見することが目的である。</li> <li>2 労働者数50人未満の事業場の事業者にも、実施義務がある。</li> <li>3 精神保健福祉士が検査の実施者となるためには、一定の要件を満たす必要がある。</li> <li>4 実施者は検査結果を、事業者に通知する義務がある。</li> <li>5 心理的負担の程度が高い労働者は、医師による面接指導を受ける義務がある。</li> </ol> <p>(注) 「労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度」とは、「労働安全衛生法」で定める「労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査及びその結果に基づく面接指導の実施等を事業者に義務づける制度」のことである。</p>	<p>③ 「事業場又は委託先の外部機関の、医師、保健師、一定の研修を受けた※看護師、精神保健福祉士の中からストレスチェックの実施者を選定します。」(労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度実施マニュアル)</p>
	<p>問題 17 日本におけるうつ病又は大うつ病性障害の疫学に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 心疾患患者における大うつ病性障害の有病率は一般人口のそれよりも低い。</li> <li>2 統合失調症で入院している患者数よりも、うつ病で入院している患者数の方が多い。</li> <li>3 大うつ病性障害の12か月有病率はアメリカよりも低い。</li> <li>4 大うつ病性障害の平均発症年齢は65歳以上である。</li> <li>5 大うつ病性障害の約1割は何らかの不安障害を併存する。</li> </ol>	<p>③ 「わが国の気分、不安、物質関連障害の12ヶ月有病率は、欧米先進諸国に比べると低く、中国、ナイジェリア、欧州の中の低い有病率の国々(ドイツ、イタリアなど)と同程度であった。」(平成18年度厚生労働科学研究費補助金&lt;こころの健康総合研究事業&gt;こころの健康についての疫学調査に関する研究分担研究報告書)</p>

<p>問題 18 次のうち、ケースコントロール研究(症例対照研究)において避けることが望ましい行為として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査実施前にインフォームドコンセントを取得すること</li> <li>2 研究仮説を知る者が面接調査を実施すること</li> <li>3 ケース群とコントロール群の間で年齢構成を一致させること</li> <li>4 標準化された測定方法を使用すること</li> <li>5 面接調査員のトレーニングを行うこと</li> </ol>	<p>② ケースコントロール研究の短所として、他の分析的研究と比べ、選択バイアス、情報バイアスに影響されやすいことが挙げられている</p>
<p>問題 19 次のうち、「医療観察法」における重大な他害行為として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 窃盗</li> <li>2 公然わいせつ</li> <li>3 放火</li> <li>4 名誉毀損</li> <li>5 過失致死</li> </ol> <p>(注)「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。</p>	<p>③ 重大な他害行為＝殺人、放火、強盗、強姦、強制わいせつ(これらの行為は未遂も含む)、傷害(軽微なものは対象とならないこともある)</p>
<p>問題 20 セルフヘルプグループに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門家の援助を基本とする。</li> <li>2 本人たちの相互援助を重視する。</li> <li>3 法人格の取得を原則とする。</li> <li>4 共同生活を基本とする。</li> <li>5 匿名性を徹底する。</li> </ol>	<p>② SHG はさまざまに定義されているが、重要な点は専門職の関与がないことであり、相互援助を尊重するとされている</p>

精神保健福祉相談援助の基盤	<p><b>問題 21</b> 精神保健福祉士に求められる新しい社会的ニーズやその対応に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童虐待への対応として、後遺症である心的外傷後ストレス障害(PTSD)や複雑性PTSDを理解した支援が必要である。</li> <li>2 学校における児童虐待や発達障害への対応として、スクールソーシャルワーカー活用事業では、精神保健福祉士が必置とされている。</li> <li>3 産業保健におけるメンタルヘルスへの対応として、セルフケア、ラインによるケアを行うものを従業員支援プログラム(EAP)という。</li> <li>4 高次脳機能障害者への対応として、うつ状態、不眠、フラッシュバック、感情の凍りつき等に配慮した支援が求められている。</li> <li>5 重大な他害行為を行った精神障害者への対応として、「医療観察法」における処遇については、精神保健福祉士及び保護観察官が担当することが規定されている。</li> </ol> <p>(注)「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。</p>	<p>① 複雑性 PTSD は、人格そのものに影響を与える</p>
	<p><b>問題 22</b> 精神保健福祉士の実践に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神障害者の生活支援場面における選択肢の提示は、二者択一を目指す。</li> <li>2 論理的、客観的な知識に加え、経験知、臨床知を統合する努力が求められる。</li> <li>3 科学的であるためにエビデンスを重視し、質的調査ではなく量的調査を用いる。</li> <li>4 精神障害者が自己決定できるよう、ラポール形成を図る。</li> <li>5 精神障害者の自立支援として、経済的自立の実現を優先する。</li> </ol>	<p>②④ ・ソーシャルワークが要する知識は多岐にわたり、社会福祉及びソーシャルワークの知見から得られた知識と、関連領域の諸科学の知識の双方を含む ・利用者との信頼関係の醸成及びパートナーシップ形成を図る</p>
	<p><b>問題 23</b> 次のうち、2007年(平成19年)に改正された社会福祉士及び介護福祉士法において、新たに追加された社会福祉士の義務等として、正しいものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 誠実義務</li> <li>2 信用失墜行為の禁止</li> <li>3 資質向上の責務</li> <li>4 秘密保持義務</li> <li>5 名称の使用制限</li> </ol>	<p>①③ 2007年の法改正では、「誠実義務」と「資質向上の義務」が追加された</p>

	<p><b>問題 24</b> 精神科ソーシャルワーカーの歴史に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ジャレット(Jarrett, M.)は、全てのケースワークに精神医学的観点が必要であることを述べた。</li> <li>2 ビアーズ(Beers, C.)は、精神科ソーシャルワーカーとして、精神科医療の改革を目指した精神衛生運動を展開した。</li> <li>3 キャノン(Cannon, I.)は、自ら精神科ソーシャルワーカーと名のつたことから、「PSWの母」と称されている。</li> <li>4 第二次世界大戦中、従軍兵の戦争神経症への対処として、ソーシャルワーカーが戦地派遣され、精神科ソーシャルワーカーの誕生に寄与した。</li> <li>5 日本の精神科ソーシャルワーカーは、第二次世界大戦後間もない時期に都立松沢病院に社会事業婦が置かれたことに始まる。</li> </ol>	<p>① 「1922年に出版されたサザードとジャレットとの共著“The Kingdom of Evils”によれば、病院で行っているソーシャルワークは、目新しいものでも、独創的なものでもなく、これまでのソーシャルワークとなんら変わらない。ただ、ソーシャルワーカーが精神衛生の分野で活躍することであり、それを Psychiatric Social Work と称しているのだという。」(愛知県立大学教育福祉学部論集 第61号(2012)から引用)</p>
	<p><b>問題 25</b> 次の記述のうち、谷中輝雄が提唱した「生活のしづらさ」として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日常生活の基礎となる動作を、独力で行えることを目標とする。</li> <li>2 他者の手助けを必要とする事実があっても、自立していると考ええる。</li> <li>3 障害は固定したものではなく、生活環境を整えることで改善できると捉える。</li> <li>4 生活問題の原因を病理現象に求め、その現象の除去を行う。</li> <li>5 主観的満足感、安定感、幸福感を重視し、それらの充足を図る。</li> </ol>	<p>③ 「従来の援助活動は医療モデルから出発していた。地域における支援活動も、病院における治療的、援助的な活動を引きずってきた歴史があった。生活支援に至って、ようやく医療モデルから生活モデルへと、その形態を整えてきたと言えるであろう。」と述べている</p>
	<p><b>問題 26</b> 相談支援専門員に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健所等において、精神障害者の相談業務を行う任用資格である。</li> <li>2 資格要件として、相談支援に関する1年の実務経験が必要である。</li> <li>3 社会福祉に関する援護、育成、又は更生の措置に関する事務を行う。</li> <li>4 計画相談支援において、サービスの支給決定に係るアセスメントを行う。</li> <li>5 要介護者又は要支援者の相談に応じ、適切なサービスを利用できるようにする。</li> </ol>	<p>④ 「障害者等の相談に応じ、助言や連絡調整等の必要な支援を行うほか、サービス利用計画の作成を行います」</p>



<p><b>問題 27</b> 統合失調症のAさん(55歳, 男性)は, 母親(80歳)と同居している。母親は認知症の進行により徘徊が目立つようになり, Aさんも母親も通院を中断してしまった。家の中で怒鳴り合う声がしばしば聞こえるようになり, 高齢者虐待を疑った近隣住民から地域包括支援センターに通報があった。地域包括支援センター職員は, Aさん親子への支援について基幹相談支援センターのB精神保健福祉士に協働を求めた。B精神保健福祉士は, 関係する多機関を交えた協議を提案した。</p> <p>次のうち, B精神保健福祉士が行ったAさんへの権利擁護の機能として, 適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発見機能</li> <li>2 代行機能</li> <li>3 教育機能</li> <li>4 情報提供機能</li> <li>5 ネットワーキング機能</li> </ol>	<p>⑤ ネットワーキングとは, ネットワークの形成過程やそれを維持していくプロセスである</p>
<p><b>問題 28</b> 精神保健福祉士が行うアドボカシーに関する次の記述のうち, 正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 クラスアドボカシーとは, 同じ課題を抱えた当事者の代弁や制度の改善・開発を目指すことである。</li> <li>2 セルフアドボカシーとは, 当事者自らがサービス利用時の権利侵害を回避できるよう指導することである。</li> <li>3 ケースアドボカシーとは, 当事者同士で権利擁護を行えるよう成功事例の蓄積を実施することである。</li> <li>4 シチズンアドボカシーとは, 当事者の権利が市民の立場から擁護されるよう地域社会に働きかけることである。</li> <li>5 リーガルアドボカシーとは, 当事者から制度を利用した際の権利侵害を聞き取り, 法的手段によって解決することである。</li> </ol>	<p>① クラスアドボカシーは, 特定の対象者に限らず広く意見を主張し, 地域の状況や制度を改善・改革していく</p>
<p><b>問題 29</b> 多機関・多職種連携の際に行われる会議に関する次の記述のうち, 正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 市町村において生活困窮者の自立支援のために行うケース会議として, 「援助方針会議」がある。</li> <li>2 退院後生活環境相談員が主催して本人や関係者でサービス提供について話し合う会議として, 「サービス担当者会議」がある。</li> <li>3 社会復帰調整官が主催して「医療観察法」における退院支援のために行う会議として, 「マルチディシプリナリチーム(MDT)会議」がある。</li> <li>4 スクールソーシャルワーカーが開催する児童への支援のために行う会議として, 「要保護児童対策地域協議会の実務者会議」がある。</li> <li>5 指定地域移行支援従事者が地域移行支援計画の作成に当たって関係者から意見を求める会議として, 「計画作成会議」がある。</li> </ol>	<p>⑤ 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定地域相談支援の事業の人員及び運営に関する基準第20条第5項 「指定地域移行支援従事者は, 計画作成会議(地域移行支援計画の作成に当たり, を開催し, 地域移行支援計画の原案の内容について意見を求めなければならない。)」</p>

<p>(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題1)</p>	<p>次の事例を読んで、問題 30 から問題 32 までについて答えなさい。</p> <p>[事 例]</p> <p>Cさん(53歳、男性)は大手機械メーカーで30年勤務してきた。半年ほど前より、パソコンの前ではんやりしている姿が見受けられるようになり、その後、会議を無断で欠席するなど、仕事上のミスがみられ業務に支障を来すようになった。上司の強い勧めにより精神科クリニックを受診したところ、若年性認知症(アルツハイマー病)と診断され、休職することとなった。Cさんは、幼稚園で事務職をしている妻、高校3年生の息子との3人暮らしである。</p> <p>その後のCさんには、日常生活上の大きなトラブルはないが、月に2回の受診以外は、特にすることもなく家で過ごしていた。ある日、通院に同行した妻はクリニックで、「夫に仕事のことを持ちかけてもイライラされて会話になりませんし、息子の受験のこともあって、今後の生活が不安です」とD精神保健福祉士に話した。そこで診察終了後、Cさん、妻との面談を行うことになった。(問題 30)</p> <p>面談から半月が過ぎた頃、NPO法人が運営する若年性認知症サポートセンター(以下「センター」という。)の活動を報じた新聞記事を目にしたCさんは、D精神保健福祉士に相談し、センターのE精神保健福祉士を紹介され見学に行った。センターは若年性認知症の人たちが集まり活動できる場として開所したばかりであり、Cさんの見学時には、利用者がE精神保健福祉士と共に、自分たちの思いや希望、今後のセンターの活動内容について積極的に話し合いをしているところであった。(問題 31)</p> <p>見学時の雰囲気が良かったためCさんは、翌週から利用を開始し3か月が経過した。妻もセンターの家族会に参加するようになった。Cさんは一度に2つの作業をすることが難しくなるといった症状の進行もみられるが、ビルや公園の清掃作業に参加し、また自ら提案したスポーツ行事が来月開催されることになるなど、前向きな日々を送っている。一方、E精神保健福祉士は、若年性認知症に対する地域住民の理解を図る活動が、利用者や今後のセンターにとって重要であると考え、準備を進めている。(問題 32)</p>	
	<p><b>問題 30</b> 次の記述のうち、この時点でのD精神保健福祉士による支援として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 妻の不安な気持ちを理解するよう、Cさんに繰り返し説明する。</li> <li>2 今後の生活設計を具体化するために、地域包括支援センターを紹介する。</li> <li>3 症状の進行を予測し、成年後見制度の手続きを勧める。</li> <li>4 息子の大学受験への影響を考え、入院について主治医と相談する。</li> <li>5 現時点におけるCさんと妻の思いや考えを相互に確認し、共有する。</li> </ol>	<p>⑤ 関係目標は、これから一緒に問題に取り組み解決していこうとする基本的な信頼関係をつくり、行動目標としては、利用者にとっての問題や利用者のおかれている状況を探索する</p>

	<p>問題 31 次のうち、この話合いの場面でのE精神保健福祉士が果たす役割として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビアカウンセラー</li> <li>2 アドボケーター</li> <li>3 ファシリテーター</li> <li>4 ケアマネジャー</li> <li>5 アドミニストレーター</li> </ol>	<p>③ 促進(ファシリテート)</p>
	<p>問題 32 次のうち、E精神保健福祉士が今後用いる方法として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アウトリーチ</li> <li>2 ストレスマネジメント</li> <li>3 コミュニティベースドリハビリテーション</li> <li>4 ソーシャルアクション</li> <li>5 コンサルテーション</li> </ol>	<p>④ ソーシャルアクション(社会活動法)</p>
<p>(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題2)</p>	<p>次の事例を読んで、問題 33 から問題 35 までについて答えなさい。</p> <p>〔事例〕</p> <p>N市にある相談支援事業所のF精神保健福祉士は、地域相談支援に携わっている。担当している統合失調症のGさん(55歳、男性)は、退院して2か月がたち、一軒家の自宅での生活に慣れ始めたところである。自宅を残してくれた両親は既に亡くなっており、一人暮らしである。</p> <p>ある日、Gさんから「近所との関係で困っている」と電話があった。F精神保健福祉士が早速訪問したところ、Gさんはつい先ほど隣家の住民から「ごみを勝手に持ち帰るな」と怒鳴り込まれたと訴えた。F精神保健福祉士は前回に立ち寄ったときと比較して、敷地内の乱雑ぶりに驚いた。あらゆる所にごみが積み上げられ、聞けば「近所に放置されていたから、家まで持ってきた」という。Gさんは「どれも大切なものであり、ごみではない」と言い張り、「危険もあるので処分しましょうよ」というF精神保健福祉士の発言に激高した。(問題 33)</p> <p>その後、F精神保健福祉士は何度も訪問を重ね、Gさんの訴えを傾聴し続けた結果、Gさんはようやく家の片付けを受け入れた。Gさんは自分で片付けると言ったが、F精神保健福祉士は、量が多いので何回かに分けて一緒に片付けるなど工夫を試みた。(問題 34)</p> <p>Gさん宅の片付けが無事に終わった後、F精神保健福祉士は定期的に訪問を続けている。隣家との関係は改善されていないものの、今のところGさんが再びごみを収集することはない。</p>	

<p>F 精神保健福祉士がN市自立支援協議会でこの件に関連して報告すると、同様のケースが発生しているということが分かり、市内の関係機関を対象に、実態調査を次年度に行うことになった。調査の意義に理解を示したN市が予算を確保し、調査に携わるメンバーが集められた。現在、それぞれのメンバーがお互いに信頼し合い、協力しながら作業を進めている。(問題 35)</p>	
<p>問題 33 次のうち、この時点でF 精神保健福祉士が配慮すべきであった倫理事項として、最も適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 クライアントの批判に対する責務</li> <li>2 個別化</li> <li>3 自己決定の尊重</li> <li>4 秘密保持</li> <li>5 地位利用の禁止</li> </ol>	<p>③</p> <p>精神保健福祉士がソーシャルワーク業務を展開するにあたり、どの業務にも共通して貫かれなければならない価値と理念は、①個人としての尊厳、②精神保健福祉の向上(well-being)、③自己決定・自己実現、④ノーマライゼーションの実現、⑤社会的復権・権利擁護と福祉、⑥共生社会の実現(ソーシャルインクルージョン)である。(2014年9月、精神保健福祉士業務指針及び業務分類&lt;第2版&gt;)</p>
<p>問題 34 次のうち、この時点でF 精神保健福祉士が試みた工夫として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域組織化</li> <li>2 エコロジカルアプローチ</li> <li>3 危機介入アプローチ</li> <li>4 行動変容アプローチ</li> <li>5 インターグループワーク</li> </ol>	<p>④</p> <p>行動変容アプローチ(行動修正モデル、行動変容モデル)は、学習理論をケースワーク理論に活用したものである</p>
<p>問題 35 次のうち、この場面で採用された方法として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ネットワーキング</li> <li>2 チームワーク</li> <li>3 ケアカンファレンス</li> <li>4 コンサルテーション</li> <li>5 グループスーパービジョン</li> </ol>	<p>②</p> <p>異なる専門職間や支援機関間で目標を共有し、継続的に確認する</p>

<p>精神 保健 福祉 の理 論と 相談 援助 の展 開</p>	<p>問題 36 精神保健医療福祉の事項と人物に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>1 わが魂にあうまで ————— 呉秀三</p> <p>2 精神病患者慈善救済会 ————— ビアース(Beers, C.)</p> <p>3 デイケア ————— リバーマン(Liberman, R.)</p> <p>4 社会生活技能訓練(SST) ————— ビエラ(Bierer, J.)</p> <p>5 当事者運動 ————— オヘイガン(O'Hagan, M.)</p>	<p>⑤</p> <p>・Mary O' Hagan＝精神医療利用者・生還者世界ネットワーク(WNUSP):ニュージーランド</p> <p>・「精神ユーザー／サバイバー運動は、より広範な障害者運動にさらなる力と多様性を与えることができる」とする</p>
	<p>問題 37 精神障害者支援の理念や方法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>1 リカバリーとは、回復のために利用していた様々な支援を必要としなくなり、自立することである。</p> <p>2 エンパワメントとは、社会的に不利な状況に置かれた人が、自らの力を高め、行動できるようになることである。</p> <p>3 ストレングスマデルとは、疾患やそれに起因する弱さを、個人に応じたプログラムにより強化していくことである。</p> <p>4 インフォームドコンセントとは、医師が推奨する治療や検査について患者を説得することである。</p> <p>5 ソーシャルインクルージョンとは、疾患や障害の状態に配慮し、求められる義務や行為に対する猶予制度を確立することである。</p>	<p>②</p> <p>「エンパワメント」とは、社会的に不利な状況におかれた人々が、その問題状況を自ら改善するパワーを高め、主体的にその状況に働きかけ改善すること、あるいはその過程を意味する</p>
	<p>問題 38 精神科リハビリテーションの基本原則に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <p>1 疾患ごとにアプローチを統一する。</p> <p>2 本人の依存を防いで自立度を高める。</p> <p>3 全過程を一貫した計画で実施する。</p> <p>4 本人と専門職の二者関係で展開する。</p> <p>5 疾病管理と再発予防の視点を持つ。</p>	<p>⑤</p> <p>精神科リハビリテーションの基本原則は、①網羅的かつ統合されたアプローチ、②当事者参加の原則、③主体性回復の視点、④個別性の重視、⑤生活環境への適応の重視、⑥疾病の管理と再発防止の視点、⑦技法の柔軟な取入れ、である</p>

	<p><b>問題 39</b> 次の記述のうち、就職を希望するクライアントのリハビリテーション計画における資源調整として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自宅から通える就労移行支援事業所を利用できるように援助する。</li> <li>2 就職の可能性について一緒に主治医の意見を聞きに行く。</li> <li>3 近所の地域活動支援センターに就労準備プログラムの開設を交渉する。</li> <li>4 新たなパソコン技能が身につくように分かりやすく教える。</li> <li>5 昼間に一緒に外出して規則正しい生活リズムに戻す。</li> </ol>	<p>① 経済的資源、社会的資源の調整や地域社会との繋ぎ役的関わりとして、「自宅方通える就労移行支援事業所の利用援助」は適切である</p>
	<p><b>問題 40</b> 社会生活技能訓練(SST)の基本訓練モデルに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイドブックに従い、基本的社会生活技能を系統的に練習する。</li> <li>2 訓練場面は、メンバー相互の話し合いでセッションごとに決定される。</li> <li>3 リーダーが手本を示し、メンバーが順に演じて相互に比較する。</li> <li>4 参加している他のメンバーからの問題点の指摘が重視される。</li> <li>5 練習したことを実生活の中で実践するチャレンジ課題(宿題)が出される。</li> </ol>	<p>⑤ 〈実際のセッション〉 ①はじめの挨拶、②新しい参加者がいれば、その人を紹介する、③生活技能訓練の目的ときまりを確認しあう、④宿題の報告を聞く、⑤練習課題を明確にする、⑥ロールプレイで技能を練習する、⑦次回までの宿題を設定する、⑧まとめ、⑨終りの挨拶(次回の予告)</p>
	<p><b>問題 41</b> 精神科医療機関の精神保健福祉士が行うインテークにおける次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別支援計画を作成する。</li> <li>2 具体的な援助を実施する。</li> <li>3 現状を総合的に理解し評価する。</li> <li>4 患者と信頼関係を形成する。</li> <li>5 面接票の事項に沿って質問する。</li> </ol>	<p>④ インテークでは、これから一緒に問題に取り組み解決していこうとする基本的な信頼関係をつくるのが関係目標である</p>
	<p><b>問題 42</b> エバリュエーションに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題分析で明らかになったニーズに対して様々な社会資源を検討し統合する。</li> <li>2 相談援助過程におけるクライアントのニーズ充足度や効果を客観的に精査する。</li> <li>3 支援計画の進捗状況と新しいニーズの追加及び目標達成度を確認する。</li> <li>4 個々のニーズの充足に向けて支援者や支援機関が各々の役割を遂行する。</li> <li>5 見守りを続け、必要に応じて介入できるよう準備する。</li> </ol>	<p>② 評価(エバリュエーション)＝実践の効果を評価する機能</p>

<p><b>問題 43</b> 統合失調症のHさん(29歳, 男性)は, ガソリンスタンドのパート収入と生活保護費を併せて, アパートで単身生活をしている。また, 精神科診療所に外来通院している。同診療所のJ精神保健福祉士が訪問したときに最近の様子を尋ねたら, 「仕事が忙しくて大変で, とても疲れる。パート先の同僚が, 生活が苦しいそうで, お金が何とかならないかと言っている」と話した。J精神保健福祉士は「仕事が大変で体がきつくて疲れてしまうのもあるけど, もしかしたらパート先の同僚からお金を貸してほしいと言われて, どうしたらよいか悩んでいるのではないですか」と尋ねた。</p> <p>次のうち, J精神保健福祉士が用いた面接技法として, 正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 明確化(clarification)</li> <li>2 要約(summarization)</li> <li>3 直面化(confrontation)</li> <li>4 支持(approval)</li> <li>5 励まし(encouraging)</li> </ol>	<p>① 明確化(clarification)=利用者のはっきりしない考えや感情を言葉で表現する</p>
<p><b>問題 44</b> 統合失調症の家族心理教育に関する次の記述のうち, 正しいものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報提供と疾病教育の2つで構成される。</li> <li>2 家族の社会的孤立状態の解消を図る。</li> <li>3 家族の感情表出が, 回復や再発に影響を与えることを説明する。</li> <li>4 システム理論に基づく家族病理について教える。</li> <li>5 家族間に共通する問題を探すことから始める。</li> </ol>	<p>②③ 家族の感情表出(EE)は再発を左右する重要な因子である。さらに, 孤立してしまうために家族関係は閉ざされたもの(エンメッシュな関係)となって心理的葛藤が生まれやすくなり, そのような相互作用が高EEの要因となる</p>
<p><b>問題 45</b> 次の記述のうち, 「障害者総合支援法」に基づく, 地域における相談支援として, 正しいものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 退院後のアパート探しのため, 地域相談支援を利用する。</li> <li>2 成年後見制度に係る費用補助を得るため, 基幹相談支援センターを利用する。</li> <li>3 地域活動支援センターに通所するため, 計画相談支援を利用する。</li> <li>4 就労移行支援事業所に通所するため, 障害者就業・生活支援センターを利用する。</li> <li>5 預金通帳を管理してもらうため, 市町村地域生活支援事業の相談支援を利用する。</li> </ol> <p>(注) 「障害者総合支援法」とは, 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。</p>	<p>①② ・退院後のアパート探しは, 住宅入居等支援事業(居住サポート事業)を利用する ・成年後見制度の利用支援として, 医療に要する費用は, 費用の負担が困難であると認められた人について, その費用の全部または一部を助成される</p>

<p><b>問題 46</b> 統合失調症の息子(30歳)のいるKさんは、1年前から保健所のL精神保健福祉相談員の紹介で地域の家族会に参加するようになった。ある日、KさんはL精神保健福祉相談員に家族会での印象的な出来事を以下のように語った。「私は息子のできなくなったことばかりが気になって、いつもイライラして厳しく当たっていました。主治医から病気の症状によるものだと聞いても受け入れられませんでした。ところがあるご家族が「病気になって一番つらいのは本人です。親にできることはそのつらさに寄り添い、本人をそのまま認めてあげること」と話していたのを聞いて、息子の苦労や大変さが感じ取れるようになってきたのです。私も親として、病気を抱えながら頑張っている息子の一番の理解者になってあげたいと思いました」。</p> <p>次のうち、セルフヘルプグループの特性の中で、Kさんの語りが示すものとして、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ヘルパーセラピー原則</li> <li>2 わかちあい</li> <li>3 体験的知識の活用</li> <li>4 レジリエンス(resilience)</li> <li>5 役割モデルの獲得</li> </ol>	<p>⑤</p> <p>セルフヘルプグループでは、サポーター自らが役割モデルとして存在し、相談者が目標や目的をつかみやすい</p>
<p><b>問題 47</b> 次の記述のうち、精神保健福祉士が障害者ケアマネジメントを終結することになる状況として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 利用者がケア計画の変更を求める。</li> <li>2 新たな在宅支援ニーズが発生する。</li> <li>3 ケアマネジメント従事者が退職する。</li> <li>4 利用者がサービスの利用を調整できるようになる。</li> <li>5 利用するサービスがインフォーマルなもので構成される。</li> </ol>	<p>④</p> <p>再アセスメントをしてニーズが解消した場合については、利用者の同意をもってケアマネジメントを終了する</p>
<p><b>問題 48</b> 次の記述のうち、精神保健福祉士が行う支援として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 退院後生活環境相談員として、医療保護入院患者の地域移行を進める。</li> <li>2 サービス管理責任者として、精神障害者のサービス等利用計画を作成する。</li> <li>3 精神保健福祉相談員として、在宅精神障害者の生活介護を行う。</li> <li>4 相談支援専門員として、精神障害者からの相談に応じて、服薬を調整する。</li> <li>5 介護支援専門員として、個別支援計画を策定する。</li> </ol>	<p>①</p> <p>退院後生活環境相談員は、医療保護入院者が可能な限り早期に退院できるよう個々の医療保護入院者の退院支援のための取組において中心的役割を果たすことが求められる</p>



<p>(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題1)</p>	<p>次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。</p> <p>[事 例]</p> <p>Mさん(67歳、男性)は大学を卒業し会社員として勤めていたが、35歳で統合失調症を発症したため退職し、障害厚生年金を受給した。56歳からU精神科病院に6回目の入院をしていた。両親は既に他界しており、きょうだいがいないMさんには身寄りがない。Mさんは時に幻聴と被害妄想が再燃して頭を抱えて臥床<sup>がしやう</sup>することもあるが、同室の患者と談笑する一面もあった。長期間の入院で生活能力や身体的機能の低下がみられ、身の回りの整理や着替えなどに一部介助が必要な状態である。U精神科病院のA精神保健福祉士は、退院に消極的なMさんを何とか退院に導きたいと、2年前からMさんに外出グループのリーダーをお願いしていた。また、長期入院経験者を病院に招いて、退院後に利用できるサービスや、自分なりの生活が送れる楽しさを語ってもらうなど、退院後のイメージが持てるように、様々な働きかけを続けた。その結果、少しずつMさんの気持ちが退院に向くようになってきた。(問題 49)</p> <p>A精神保健福祉士は院内のカンファレンスでMさんの変化を伝え、退院に向けたケア会議を開いた。会議にはMさんも含め、地域包括支援センターの社会福祉士と、指定一般相談支援事業所のB相談支援専門員に参加してもらった。会議の結果、Mさんの退院に向けて取り組むことを全員で共有した。社会福祉士からは、Mさんの退院後の支援については介護保険も利用できるため、要介護認定申請と介護保険サービスに関する説明があった。(問題 50)</p> <p>B相談支援専門員がMさんに地域移行・地域定着支援に関して丁寧に説明したところ、Mさんは時々夜になると不安が大きくなることや、年をとってきたため家事や金銭管理に自信がないと語った。その後Mさんは要介護1の認定を受けるとともに、地域移行・地域定着支援を利用して退院した。(問題 51)</p> <p>現在Mさんは、地域で展開している「ふれあい・いきいきサロン」に時々顔を出すなど、自分なりの生活を楽しんでいる。</p>	
	<p>問題 49 次のうち、A精神保健福祉士が行ったアプローチとして、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ナラティブアプローチ</li> <li>2 エンパワメントアプローチ</li> <li>3 心理社会的アプローチ</li> <li>4 問題解決アプローチ</li> <li>5 課題中心アプローチ</li> </ol>	<p>② エンパワメント・アプローチは、利用者のもっている力を引き出して援助する</p>

	<p><b>問題 50</b> 次のうち、このケア会議で説明された、Mさんが利用できるサービスとして、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 認知症対応型共同生活介護の利用</li> <li>2 短期入所生活介護の利用</li> <li>3 養護老人ホームへの入所</li> <li>4 施設入所支援の利用</li> <li>5 訪問介護の利用</li> </ol>	<p>⑤ 介護保険優先の原則として、在宅での「訪問介護」の利用が適切である</p>
	<p><b>問題 51</b> 退院時にB相談支援専門員が立てた地域移行支援計画に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 就労継続支援A型事業所に通う。</li> <li>2 成年後見制度を利用する。</li> <li>3 夜間の電話連絡が取れる体制を作る。</li> <li>4 通院時に行動援護を使う。</li> <li>5 訪問入浴介護を利用する。</li> </ol>	<p>③ 電話などによる本人からの相談支援に関連して、「夜間に電話連絡が取れる体制作り」は適切である</p>
<p>(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題2)</p>	<p>次の事例を読んで、問題52から問題54までについて答えなさい。</p> <p>[事例]</p> <p>Cさん(45歳、男性)は、妻と2人の子ども(高校生と中学生)の4人家族で、これまで順調に働いてきた。1年前に営業部の課長となったCさんは、責任感を持って仕事に取り組んでいたが、部下との関係がうまくいかずに悩んでいた。その後、次第に疲れやすくなり食欲不振と不眠がみられ、表情は乏しく元気がなくなっていった。ある日、仕事でのミスが続く取引先から叱責され、それを契機に朝起きられず出勤できない日が続いた。心配した上司に勧められてV精神科病院を受診したところ、うつ病と診断され、しばらく会社を休むことになった。Cさんと妻は、今後の生活についてV精神科病院のD精神保健福祉士に「学費や住宅ローンもあるし、お父さんがずっと家にいて子どもたちにはどうでしょうか」「休みが続くと会社に戻れなくなるのではないだろうか」と不安そうに相談した。(問題52)</p> <p>1か月が経過し、復職を焦り始めたCさんは「早く職場に戻りたい」と上司に訴え、元の部署に復帰したが、うつ状態が悪化しては休むことが繰り返された。そのようなCさんに、主治医はデイケアの復職支援プログラムを利用して確実な復職と再発予防に取り組む必要性を説いた。Cさんは休職の手続きを取ってデイケア通所を開始し、引き続きD精神保健福祉士が担当になった。Cさんは休まずデイケアに参加し、真面目にプログラムに取り組んだ。次第に体力も回復し他のメンバーと笑顔で会話するようになったが、自分のやり方にこだわりが強く、それを正しいと思い込んで周囲に強い</p>	

<p>る様子が目立った。D精神保健福祉士は、デイケアのカンファレンスでCさんの現状を伝え、今後の対応を協議した。(問題 53)</p> <p>デイケアを開始して5か月が経過した頃、D精神保健福祉士はCさんと面談し、今後の意向を確認した。Cさんは「デイケアで自分の課題が見えてその対処法も学んできた。そろそろ復職に向けて具体的に進めたい」「休んでいた期間が長かったので通勤が不安だし、前と同じように働けるのかも心配」と答えた。D精神保健福祉士はCさんの意向を踏まえて、今後必要な働きかけを検討した。(問題 54)</p>	
<p>問題 52 次の記述のうち、この時点のD精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済的な不安を軽減するため、障害年金の申請手続を説明する。</li> <li>2 職業の安定を図るため、可能な仕事への転職を検討してもらう。</li> <li>3 子どもの精神的負担を考え、Cさんに平日の図書館通いを勧める。</li> <li>4 療養に専念するため、会社の就業規則を確認するよう伝える。</li> <li>5 復職に備えるため、自宅では積極的に家事を行うよう促す。</li> </ol>	<p>④</p> <p>早すぎる復職は、再発のもとであり、職場復帰をあせらないことが良い結果を生む。休職、復職にあたっての会社のルールを知っておくことが必要である</p>
<p>問題 53 次の記述のうち、Cさんの課題を改善するための対応として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎日の出来事と所感を書き出して自分の思考や行動を振り返る。</li> <li>2 オフィスワークプログラムで個別作業の時間を増やす。</li> <li>3 自律訓練法を活用したプログラムを導入する。</li> <li>4 元気回復行動プラン(WRAP)への参加を促す。</li> <li>5 皆勤賞としてメンバーミーティングで表彰する。</li> </ol>	<p>①</p> <p>体が回復すると、これまでの自分の生活そのものを振り返ることができるようになる。また、自身がかかえている問題に気づき、援助者はよりよい生き方について思考し判断・行動できるように援助する</p>
<p>問題 54 次の記述のうち、D精神保健福祉士の今後の働きかけとして、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 復職のタイミングはCさん自身が決めるよう伝える。</li> <li>2 他の部署への配置転換を上司に依頼する。</li> <li>3 次のステップとして就労移行支援事業の利用を勧める。</li> <li>4 Cさんの病状を社員に周知させるよう会社に助言する。</li> <li>5 職場の前まで行ってからデイケアに来ることを提案する。</li> </ol>	<p>⑤</p> <p>就労に関しては、本人の就労ニーズを尊重しその力を引き出すとともに、就労環境の調整を通して、主体的に社会活動・経済活動に参加できるよう支援する</p>

<p>(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題3)</p>	<p>次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。</p> <p>〔事例〕</p> <p>Eさん(15歳、女性)は、中学2年生の夏より不登校傾向が強まっていた。3年生になり、周囲の同級生の間で進学先の話が増え、三者面談が始まる中で、将来への不安が増大して悲観的に考えるようになった。そして、2学期から全く登校しなくなり、部屋にひきこもるようになった。そこで、W中学校では市の教育委員会に配置されたスクールソーシャルワーカーのF精神保健福祉士の派遣を依頼した。</p> <p>F精神保健福祉士はW中学校を訪れ、担任や校長からEさんに関する情報収集を行った。その後、F精神保健福祉士による家庭訪問が始まった。初回の家庭訪問を担当と一緒にいったが、本人は自室に鍵を掛け出てこなかった。母親との面談から、親子間の会話も少なく、オンラインゲームに熱中し、ゲームへの課金による多額の請求がきていることなどが分かった。また、父親がうつ病で入院していることも分かった。</p> <p>(問題 55)</p> <p>F精神保健福祉士による定期的な訪問や声かけの結果、Eさんと直接会うことができ、日常的な会話もできるようになってきた。Eさんからは、「みんながどう思っているのかな」「学校に行っても何て話しかけたらいいか…」「進学したいけど、どうかな」「アルバイトとかで働けるのかな」などの希望や不安が示された。そこで、F精神保健福祉士は間近に迫る進路決定や卒業などを念頭に入れ、支援を続けた。Eさんは冬休み明けには少しずつ登校もできるようになり、卒業を迎えた。その後Eさんは定時制高校に進学し、まだ時折欠席もあるが、日中は関係機関を利用しながら生活をしている。(問題 56)</p> <p>Eさんに対するF精神保健福祉士の一連の支援が終結し、年度明けにW中学校の職員室において教職員に今回のまとめを報告する機会があった。そこで複数の教職員からメンタルヘルス課題のある生徒への対応や支援で悩みを抱えているとの相談があり、ある提案を行った。(問題 57)</p>	
	<p>問題 55 次の記述のうち、この時点でのF精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 インターネットの接続を遮断するよう提案する。</li> <li>2 父親の病状について主治医から説明を受ける。</li> <li>3 母親へクラスの様子等の情報を提供するよう担任に促す。</li> <li>4 Eさんの部屋の鍵を開けてもらうよう依頼する。</li> <li>5 親子関係の再構築のための助言をする。</li> </ol>	<p>① インターネットのオンラインゲームに熱中している状況を改善することが重要である</p>

	<p>問題 56 次のうち、Eさんが利用している関係機関として、適切なものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域若者サポートステーション</li> <li>2 訪問看護ステーション</li> <li>3 地域活動支援センター</li> <li>4 ひきこもり地域支援センター</li> <li>5 地域障害者職業センター</li> </ol>	<p>①③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域若者サポートステーション（サポステ）では、働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、キャリア・コンサルタントなどによる専門的な相談、コミュニケーション訓練などによるステップアップ、協力企業への就労体験などにより、就労に向けた支援を行っている</li> <li>・地域活動支援センターは、障害者等を通わせ、創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等の便宜を供与する障害者総合支援法上の施設である</li> </ul>
	<p>問題 57 次のうち、この時点でF精神保健福祉士が提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 特別支援学校の紹介</li> <li>2 児童相談所への迅速な通告</li> <li>3 教職員間における情報の共有</li> <li>4 Eさんの体験発表会の開催</li> <li>5 障害福祉サービスの説明会の実施</li> </ol>	<p>③</p> <p>スクールソーシャルワーカーは、子どもに影響を及ぼしている家庭・学校・地域環境の改善に向けて、学校・家庭・地域の支援ネットワークを築く福祉の専門家である</p>

<p>(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題4)</p>	<p>次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。</p> <p>[事 例]</p> <p>Gさん(30歳、女性)は18歳で統合失調症を発症し、入院を経験しながらも、25歳で農業大学校を卒業して、父親が代表を務める農業法人でいちご加工部門を担当している。受診は継続し、時には周りのことや対人関係が気になることもあるが、自分で対処できるようになってきた。</p> <p>受診先のH精神保健福祉士はGさんの初診時から何かと相談に乗っていた。3年前に「仕事そのものには自信がついてきたけれど、商談や仕事関係の会合はやはり疲れる。どこか引け目を感じ、病気のせいかなとか思ってしまう」と相談された際は、交流を目的に発足したばかりの当事者活動グループを紹介した。(問題 58)</p> <p>Gさんは当事者活動の中で、精神保健ボランティア講座の企画・実施に加わり、自分の体験談を話す機会を得てから、次第にグループの中心メンバーになっていった。「メンバーが増えない。活動への参加者が減ってきて、いつも同じメンバーしか参加しない」などグループ活動の悩みを相談されたH精神保健福祉士は、社会福祉専門職団体の連絡会でも当事者活動の支援が課題となっていたこともあり、Gさんと話し合いを重ねた。その中から、様々な当事者活動の交流会を開催したらどうかというアイデアが生まれ、昨年春にはいくつかの当事者活動グループに社会福祉専門職団体が協力して当事者活動交流会を開催した。(問題 59)</p> <p>交流会の実行委員を務めたGさんは、そこで難病家族会のメンバーJさんと知り合った。Jさんは農学部出身ということもあって話が合い、交際が始まり、最近婚約した。Jさんの横で「また調子を崩すんじゃないかと不安はある。自分を大切に、これからもチャレンジしていきたい。もうひとりじゃないし」とH精神保健福祉士に語るGさん。その場でGさんとJさんから、障害者が中心となって障害者だけでなく地域にも貢献できる新しい活動を始めたいという夢がH精神保健福祉士に語られた。そこでH精神保健福祉士は、各地の情報や経験を集めながら何が自分たちの暮らしや地域に役立つのか、ゆっくりと一緒に考えていこうと提案し、二人も頷いた。(問題 60)</p>	
	<p>問題 58 次の記述のうち、この時点でH精神保健福祉士が行ったGさんへの支援の目的として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーションスキルを身につける。</li> <li>2 対人緊張への対処法を学ぶ。</li> <li>3 別の働きやすい職場を創り出す。</li> <li>4 自信を取り戻す機会を提供する。</li> <li>5 グループをまとめる力を獲得する。</li> </ol>	<p>④ 「自信を取り戻す機会を提供する」が最も適切である</p>

	<p>問題 59 次のうち、この時点でH精神保健福祉士が行った支援として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループワーク</li> <li>2 リフレーミング</li> <li>3 コラボレーション</li> <li>4 ソーシャルサポートネットワーク</li> <li>5 アドボカシー</li> </ol>	<p>③</p> <p>コラボレーション(collaboration)とは、複数の立場や人によって行われる協力・連携・共同作業をいう</p>
	<p>問題 60 次のうち、GさんJさんたちとH精神保健福祉士の関係として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 リーダーシップ</li> <li>2 フォロワーシップ</li> <li>3 メンバーシップ</li> <li>4 シチズンシップ</li> <li>5 パートナーシップ</li> </ol>	<p>⑤</p> <p>精神保健福祉士は、生活主体者である利用者との協働を支援の基本におき、パートナーシップ(「当事者との協働」)を形成する</p>
精神保健福祉に関する制度とサービス	<p>問題 61 障害支援区分の認定に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 2次判定はコンピューターソフトを用いて行われる。</li> <li>2 障害支援区分は5段階で認定される。</li> <li>3 介護給付費を受ける場合は認定が必要となる。</li> <li>4 認定の審査会は原則として都道府県に置かれている。</li> <li>5 心身の状態を総合的に判定する。</li> </ol>	<p>⑤</p> <p>精神保健福祉士は、生活主体者である利用者との協働を支援の基本におき、パートナーシップ(「当事者との協働」)を形成する</p>
	<p>問題 62 次のうち、精神障害者保健福祉手帳2級を取得していることによって、経済的負担を軽減できる制度として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 JR旅客運賃の割引</li> <li>2 所得税の障害者控除</li> <li>3 有料道路(高速自動車国道)の通行料金の割引</li> <li>4 贈与税の非課税</li> <li>5 自動車取得税の減免</li> </ol>	<p>②</p> <p>所得税の控除=1級:40万, 2級以下:27万</p>

<p><b>問題 63</b> 次の記述のうち、「障害者総合支援法」に基づく精神障害者に対する基幹相談支援センターの役割として、正しいものを2つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健所、市町村、関係機関に対する技術援助に取り組む。</li> <li>2 精神障害者の地域での相談支援体制の強化に取り組む。</li> <li>3 精神科病院への地域移行に向けた普及啓発に取り組む。</li> <li>4 住民の精神的健康の保持増進に取り組む。</li> <li>5 精神科救急医療体制の整備に取り組む。</li> </ol> <p>(注)「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。</p>	<p>②③</p> <p>＜基幹型相談支援センター事業＞</p> <p>・地域の相談支援の強化の取り組み</p> <p>・地域移行・地域定着の促進の取り組み 等</p>
<p><b>問題 64</b> Kさん(38歳、女性)は、入退院を繰り返す中で、すっかり退院への自信もその後の生活への希望も失っていた。その時、一足先に退院したLさん(40歳、女性)が通院の度に声をかけてくれ、新たに始めたアパートでの生活について楽しそうに話してくれた。その後、Kさんも退院と同時に一人暮らしを始めた。地域での生活に慣れてきたKさんは、Lさんのように、同じ病気を有する人の役に立ちたいと思い、通院先で担当のM精神保健福祉士にそのことを話すと、P市があるスタッフを探していると教えてくれた。そのスタッフとは、退院に不安を持つ入院中の人を訪ねて、同じ経験を持つ人の立場から、退院に前向きな気持ちになれるように支援するものであった。</p> <p>次のうち、そのスタッフにふさわしい名称として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ジョブコーチ</li> <li>2 ゲートキーパー</li> <li>3 ケアワーカー</li> <li>4 スーパーバイザー</li> <li>5 ピアサポーター</li> </ol>	<p>⑤</p> <p>ピアサポーター＝当事者にとって、「仲間」として気持ちが分かり合える良き理解者となる</p>
<p><b>問題 65</b> 更生保護制度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 更生保護施設は、保護観察対象者等のための通所施設である。</li> <li>2 BBS会は、更生保護女性会の略称である。</li> <li>3 保護観察官の任期は、2年であるが再任可能である。</li> <li>4 協力雇用主の業種は、サービス業が約半数を占める。</li> <li>5 保護司は、非常勤の国家公務員である。</li> </ol>	<p>⑤</p> <p>保護司は、保護司法に基づき、法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員(実質的に民間のボランティア)である</p>



	<p>問題 66 「医療観察法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 指定入院医療機関は、都道府県知事により指定される。</li> <li>2 入院先は、指定入院医療機関の中から付添人が決定する。</li> <li>3 指定医療機関の管理者は、地方裁判所の長と連携を図り、社会復帰に関する相談、援助などを行う。</li> <li>4 入院患者の外出、外泊は、外部評価会議の承認が必要である。</li> <li>5 指定入院医療機関の管理者の申請による退院は、地方裁判所の審判により決定する。</li> </ol> <p>(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。</p>	<p>⑤</p> <p>法第 49 条第 1 項： 「入院を継続させてこの法律による医療を行う必要があると認めることができなくなった場合は、保護観察所の長の意見を付して、直ちに、地方裁判所に対し、退院の許可の申立てをしなければならない。」</p>
	<p>問題 67 次のうち、「医療観察法」の指定入院医療機関に入院している者又はその保護者による処遇改善の請求先として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 厚生労働大臣</li> <li>2 法務大臣</li> <li>3 都道府県知事</li> <li>4 地方裁判所長</li> <li>5 保護観察所長</li> </ol>	<p>①</p> <p>法第 95 条： 「厚生労働大臣に対し、指定入院医療機関の管理者に対して当該入院している者の処遇の改善のために必要な措置を採ることを命ずることを求めることができる。」</p>
	<p>問題 68 次のうち、精神保健参与員を指定する機関として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 検察庁</li> <li>2 精神保健福祉センター</li> <li>3 保健所</li> <li>4 地方裁判所</li> <li>5 保護観察所</li> </ol>	<p>④</p> <p>地方裁判所は、厚生労働大臣が予め作成した精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術を有する精神保健福祉士等の名簿の中から、各事件毎に指定する</p>

	<p><b>問題 69</b> Q市には「障害者総合支援法」に基づく協議会があり、相談支援に関する専門部会を設置している。その会議で、Q市で生活している精神障害者が週末に集える場を新たに作る必要があるとの意見が出された。そこで、市内の関係する事業所の利用者を対象とする質問紙調査を実施することになった。</p> <p>次の記述のうち、調査の倫理的配慮として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 調査の依頼文書に、Q市で生活している精神障害者のニーズを把握し、社会資源開発に活用するなどの調査目的を記載する。</li> <li>2 匿名性を確保するため、調査票に回答者のイニシャルを記入してもらおう。</li> <li>3 関係機関に対し、調査に関する相談があったときには、調査協力を拒否した場合に生じる不利益について説明するよう依頼する。</li> <li>4 調査結果を入力したデータは、協議会での情報共有を図るため、誰でも内容を確認できる場所で保管する。</li> <li>5 調査終了後、協議会で活用するため個票の二次利用を行う。</li> </ol>	<p>① 倫理的配慮として、質問紙調査票を郵送した施設に対して調査の主旨とデータ分析に際しては、すべて数値化するため施設名を一切出さないことを文書で説明査することが必要である</p>
精神保健福祉に関する制度とサービス事例問題	<p>次の事例を読んで、問題70から問題72までについて答えなさい。</p> <p>〔事例〕</p> <p>当時20歳代のAさん(男性)は、統合失調症の診断で精神科のX病院に市長の同意による入院となった。Aさんが入院する前年、高度経済成長の最中、東京オリンピックが開催され、その数か月前には駐日アメリカ大使ライシャワー氏が精神障害のある少年に刺されるという事件があり、精神科医療が大きく揺れた年でもあった。(問題70)</p> <p>Aさんは、身寄りもなく、生活保護を受けながら入院生活を送ることになった。その後Aさんは院内作業をするなどしていたが、外出は一度もすることがなかった。Aさんは元々真面目な性格でおとなしく、病棟スタッフからも信頼を得て、病棟患者会での役割を受け持つなどして過ごした。そしてAさんは、閉鎖病棟で地域社会とは関わりのないまま20年余りの歳月が流れた。このような中で宇都宮病院事件が起きたことを契機に法改正が行われた。そこで40歳代になったAさんは、新しい入院形態について説明を受けた。Aさんが入院に同意をすると、入院に関する告知とともに新しい入院形態に変更された。(問題71)</p> <p>その後、退院する気持ちが強くなったAさんは、他人の手を借りるのは申し訳ないと、入院形態を変更した1年後には自らアパートを探して退院した。退院後、Aさんは、生活が次第に乱れ外来通院も滞りがちとなり、半年後には再入院となった。Aさんはすっかり自信を失っていた。Aさんの担当となったBソーシャルワーカーは、4年がかりで再びAさんのアパート暮らしに対する希望を引き出した。Bソーシャルワーカーは、50歳代になったAさんの状況について一人暮らしは難しいが見守りがあれば地域での生活は可能であると判断した。Bソーシャルワーカーは、保健所のC相談員に相談したところ、これまで予算措置として実施されていた制度がこの時点で法定化したこともあり、それを活用しようという話になった。(問題72)</p> <p>現在、Aさんは70歳代になったが、地域での生活が継続している。</p>	

	<p>問題 70 次のうち、Aさんが入院するに当たり適用された法律として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律</li> <li>2 精神病患者監護法</li> <li>3 精神保健法</li> <li>4 精神衛生法</li> <li>5 精神病院法</li> </ol>	<p>④ 精神衛生法：1950年～1965年</p>
	<p>問題 71 次のうち、Aさんの新しい入院形態として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 応急入院</li> <li>2 医療保護入院</li> <li>3 任意入院</li> <li>4 措置入院</li> <li>5 緊急措置入院</li> </ol>	<p>③ 1987年に精神衛生法が精神保健法となり、新たな入院形態として任意入院が創設された</p>
	<p>問題 72 次のうち、C相談員が紹介した制度として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神障害者生活訓練施設</li> <li>2 精神障害者地域生活援助事業(グループホーム)</li> <li>3 精神障害者通院医療費公費負担制度</li> <li>4 精神医療審査会</li> <li>5 精神障害者保健福祉手帳</li> </ol>	<p>② 精神障害者地域生活援助事業(グループホーム)の法定化は、1993年の精神保健福祉法である</p>
<p>精神障害者の生活支援システム</p>	<p>問題 73 「精神保健福祉法」第5条に規定されている精神障害者の定義に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害及び社会的障壁により、継続的に生活に相当の制限を受ける状態にある者としている。</li> <li>2 精神作用物質による急性中毒又はその依存症を有する者が含まれている。</li> <li>3 知的障害を有する者は、精神障害者保健福祉手帳の交付対象である。</li> <li>4 発達障害を有する者が明記されている。</li> <li>5 2013年(平成25年)改正時に精神病質が除外された。</li> </ol> <p>(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。</p>	<p>② 「この法律で「精神障害者」とは、統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者をいう。」</p>

<p>問題 74 「障害者総合支援法」に基づく就労移行支援事業に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる65歳未満の就労希望者が対象である。</li> <li>2 利用期間が設定されていない事業である。</li> <li>3 利用者との雇用契約を結ぶ事業である。</li> <li>4 市町村地域生活支援事業の1事業である。</li> <li>5 介護給付費が支給される事業である。</li> </ol> <p>(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。</p>	<p>① 就労移行支援事業は、一般就労等を希望する原則18歳以上から65歳未満の障害や難病のある人が利用できる</p>
<p>問題 75 次の記述のうち、元気回復行動プラン(WRAP)に関する説明として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自らの意思では受診が困難な精神障害者に対し、支援者が暮らす場に出向いて支援する際の活用を目的に作成された。</li> <li>2 アメリカの援助付き雇用の方法を導入して、支援者が働く場に出向いて支援する際に活用することを目的に作成された。</li> <li>3 ヨーロッパで精神科病院が縮小された後、地域の中で精神障害者が働く場を創出する際に活用されたことに起源がある。</li> <li>4 インフォーマルなサポートとフォーマルなサポートを織り交ぜながらネットワークを構築する方法として活用される。</li> <li>5 精神障害を有する当事者の間で考案されたもので、ファシリテーターとして活動する人の養成が行われている。</li> </ol>	<p>⑤ 自己管理元気回復行動プラン(WRAP=Wellness Recovery Action Plan) では、WRAPファシリテーター養成研修が開催されている</p>

<p>問題 76 Dさんは、精神科病院を退院し、単身生活を継続して10年になる。退院当初は一般就労を試み、必死になって、発病前の生活スタイルに戻そうとした。しかし、1年前に、デイケアで知り合ったEさんが、自分に合った暮らし方をしている姿を見て、「これだ」と思った。ただ一方で、迷う気持ちもあった。そこで、退院して以降、継続的に相談をしているF精神保健福祉士に対して、自身の思いを吐露した。すると、F精神保健福祉士は、「人は社会生活をする中で、多くの事柄に遭遇し、以前とは異なる暮らし方になることもあるでしょう。でも、大事なこととして、人は置かれている現状の中で、いかに自らが納得できる、自分なりの生き方を見いだせるかが重要だと思うんです」と話した。</p> <p>次のうち、F精神保健福祉士がDさんに話した生活支援の理念やモデルとして、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 I P S (Individual Placement and Support)モデル</li> <li>2 リカバリー</li> <li>3 クラブハウスモデル</li> <li>4 ジョブコーチモデル</li> <li>5 ソーシャルファーム</li> </ol>	<p>②</p> <p>「リカバリー」とは、病気や障害によって失ったものを回復する過程であり、人生の新しい意味と目的を作り出すことを指す(『精神保健福祉用語辞典』)</p>
<p>問題 77 次のうち、精神保健福祉センターの業務として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 特定相談支援事業者の指定</li> <li>2 医療保護入院に関する入院届の受理</li> <li>3 自立支援医療の申請窓口</li> <li>4 措置入院者及び医療保護入院者の定期病状報告の審査</li> <li>5 精神障害者保健福祉手帳の申請に対する判定</li> </ol>	<p>⑤</p> <p>精神保健福祉センターは、自立支援医療(精神通院)及び精神障害者保健福祉手帳の判定に関する事務を行う</p>

<p>(精神障害者の生活支援システム・事例問題)</p>	<p>次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。</p> <p>〔事 例〕</p> <p>Gさん(67歳、女性)は、38歳のときに統合失調症を発症して以来、R市内にあるY精神科病院に入退院を繰り返した後、地域移行・地域定着支援事業を利用して2年前からR市内の自宅に一人で暮らしている。他に身寄りはない。退院後は、Y精神科病院のH精神保健福祉士の勧めで、若い頃に修得した華道をいかして、障害者に対して創作的活動や生産活動の機会の提供などを行うZセンターの利用者に1週間に1回、生け花を教えるなど、充実した生活を送っている。(問題 78)</p> <p>他方、Gさんは、食事の準備や掃除、洗濯などの家事が苦手であり、さらに加齢による身体の衰えも徐々に現れ、要支援1の認定をR市より受けている。そのため、退院当初より、介護保険法のU事業所のスタッフであるJさんが作成したケアプランに基づき、ホームヘルパーのサービスを利用している。(問題 79)</p> <p>最近になってGさんは、H精神保健福祉士に将来の不安を訴えるようになった。特に、Gさんが気掛かりなのは、両親が残してくれた自分名義のアパートと預金の管理についてである。預金口座には現在、約2千万円の残高があり、Gさんが自分で大切に管理している。生活費についても、Gさん自身の障害年金とアパート収入を活用してうまく生活している。しかし、Gさんは、「今は自分で家計のやりくりもできているが、自分ももう年だし、いつどうなるかわからない。頼れるきょうだいや親族もない。この先、認知症になったりしたときに、自分に代わって財産をしっかりと管理してくれる人はいないだろうか」とよく口にしてている。そこで、H精神保健福祉士は、このことに対応する社会資源について紹介した。(問題 80)</p>	
	<p>問題 78 次のうち、Zセンターの事業の種別として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域包括支援センター</li> <li>2 地域生活定着支援センター</li> <li>3 障害者就業・生活支援センター</li> <li>4 地域活動支援センター</li> <li>5 地域障害者職業センター</li> </ol>	<p>④</p> <p>地域活動支援センターは、障害者に創作的活動・生産活動の機会を提供することにより、社会との交流を促進し、自立した生活を支援する施設である</p>
	<p>問題 79 次のうち、U事業所の業務に従事するJさんの職種として、正しいものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護支援専門員</li> <li>2 相談支援専門員</li> <li>3 精神保健福祉相談員</li> <li>4 退院支援相談員</li> <li>5 サービス提供責任者</li> </ol>	<p>①</p> <p>介護支援専門員は、「介護保険法」に規定された専門職で、居宅介護支援事業所や介護保険施設に必置とされている職種である</p>

<p>問題 80 次のうち、この時点でH精神保健福祉士がGさんに紹介した社会資源として、適切なものを1つ選びなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 日常生活自立支援事業</li><li>2 生活困窮者自立支援制度</li><li>3 任意後見制度</li><li>4 地域定着支援事業</li><li>5 自発的活動支援事業</li></ol>	<p>③</p> <p>任意後見制度は、将来、本人の判断能力が低下したときのために、自分のライフプラン(生活設計)を立てておき、それを実行するための後見人をあらかじめ定めておく制度である</p>
---	---